国内医学部における，学内刊行誌・紀要誌の計量的分析

－国際誌を志向する学内誌の特徴と，引用文献の動向－

城山泰彦　（KIYAMA Yasuhiko）
順天堂大学学術メディアセンター

Ⅰ．背景と目的

学術成果の公開とともに，研究インパクトの増大が求められる昨今。身近な投稿先のひとつに，国内の医学部で発行される学内刊行誌や紀要（以下，学内誌）が挙げられる。学内誌の位置づけは，医学部により様々である。医学部を持つ 82 大学で，国際的なジャーナルをめざして欧文誌を刊行する大学が 28 ある一方で，11 大学では学内誌が刊行されていない。そして継続刊行されている 94 誌のうち，77 誌が Open Access Journal であるが，電子化されていない学内誌が 12 誌あった。国際誌をめざすためには，文献が多くの研究者に注目されるようにジャーナルの質を高め，電子化をはじめ Open Access Journal としたうえで，文献データベースの収載基準を満たす必要がある。国際誌をめざす学内誌にはどのような傾向があるのか，そして学内誌の学術的な位置づけについて調査する。

Ⅱ．調査方法と調査項目

調査対象は，2018 年 6 月時点で継続刊行されている，医学分野一般を扱う医学部の学内誌とした（一般教養や特定部門のみを扱った学内誌は除外）。厳格な収載基準を持ち，Web of Science（WoS）に収載され，Journal Impact Factor 値（IF 値）付与の対象となる，Journal Citation Reports（JCR）2016 年版に収載される学内誌は 5 誌ある。Tohoku Journal of Experimental Medicine (東北大学)，Journal of Nippon Medical School (日本医科大学)，Nagoya Journal of Medical Science (名古屋大学)，Yonago Acta Medica (鳥取大学)，Acta Medica Okayama (岡山大学)であり，この 5 誌を対象に計量的な分析を行った。調査項目は，掲載文献数，IF 値の推移，引用文献の特徴などで，国内医学会が刊行する欧文機関誌と比較して分析した。そしてすべての学内誌を対象として，電子化と Open Access 状況と，データベース収載状況について，前回報告からの進展を調査した。

Ⅲ．結果と考察

WoS と JCR に収載される上記 5 誌は，医中誌 Web はもちろん，PubMed と Scopus にも収載されている。国内医学会が刊行する欧文機関誌との比較では，引用に関する数値は低めであった。しかしデータベースに収載された文献情報が，国内外の研究者の目に届くことで引用を集める一助となり，さらにはジャーナルのステータスを築き上げる礎になっていると思われた。学内誌が持つ特色を大切にしたうえで，機関リポジトリやウェブサイト等による情報発信と同様に，所属機関の研究成果が学内誌からも広く発信されていくよう，医学図書館員の立場から，支援していけることがあるのではないかと感じている。